

週 報

1998年12月27日 降誕節第1主日

巻19

39号

1998年度 教会主題

恵みの座に近づこう

聖句 だから、憐れみを受け、恵みにあずかって、時宜に、
かなった助けをいただくために、大胆に恵みの座に
近づこうではありませんか。

ヘブライ人への手紙 4章 16節

- 目標 1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
2. 一人が一人を伝道する。

日本キリスト教団 横浜港南台教会

横浜市港南区港南台7丁目8-29

郵便番号 234-0054

電 話 045-833-5323

F A X 045-833-6616

振 替 00290-4-13994

牧 師 秋 吉 隆 雄

強いられていく。

アメリカの狙いはフセイン政権の打倒にあるようだ。しかし、いくら独裁的なフセインでも、武力で脅されては国民も納得できまい。「反アメリカ」感情が燃え盛るだけである。国際的な世論と協調を無視して、力で言うことを聞かそうとする発想そのものが「狂気」である。

アドベントに、気の滅入るニュースを聞かされたが、もっと滅入ったのは、日本政府の対応である。どの国よりも先立って「空爆支持」を表明した。湾岸戦争の時、イラク制裁の国連決議があった。日本のPKO、PKF推進論者は国連決議が「錦の御旗」であった。今回はアメリカの独断、先行である。「支持表明」はどこから出てくるのか。呆れ果てる。更に、憲法9条には「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」とある。憲法を金もうけの手段にし、世界平和を実現する理念とはしてこなかった。

◇牧師室から◇

アメリカはイギリスを引き連れてイラクを空爆した。「世界の警察官」を任ずるアメリカは、ここまで独善的になり得るのか。この8月にも、アメリカ大使館への爆弾テロに対する報復としてアフガニスタンとスーダンにミサイル攻撃をした。あの時は、国連の調査も何もなく一方的に攻撃した。今回は、イラクの「査察拒否」を理由にしている。国連の地道で忍耐強い話し合いによる解決を無視して独断、先行した。アナン事務総長が「悲しい日」と語った言葉が印象的である。空爆は4日で終わったが、アメリカは「戦果あり」と言い、新聞は「大してない」と報道している。国際的な反発が大きく、矛を収めざるを得なかったのではないか。イラク国民は多くの死者を出し、空爆に脅えたことだけは確かである。そして更に貧しい生活が